

令和3年度
射水市公募提案型市民協働事業報告会

令和4年度
射水市公募提案型市民協働事業審査会



日 時：令和4年2月5日(土)

【報告会】午後1時45分～

【審査会】午後2時00分～

場 所：射水市役所 3階302～304会議室

射水市市民生活部

地域振興・文化課

次 第

1 令和3年度公募提案型市民協働事業報告会 開会

2 提案団体による事業報告

・富山福祉短期大学

「あきらめないで挑戦する自分になる！「自分を応援できる自分づくり」
促進事業」

3 令和4年度公募提案型市民協働事業審査会 開会

4 審査委員の紹介及び進行説明等

5 提案団体によるプレゼンテーション

【フリー型】多様な主体による協働事業

①射水市世界一挑戦塾 ／ しろえび未来企画有限責任事業組合
／一般社団法人 金山里山の会
「イミズ そうめんのだす（出汁）」

【テーマ型】持続可能なまちづくりに向けて

②若い芽・こども音楽コンクール実行委員会
「若い芽・こども音楽コンクール」

③特定非営利活動法人 自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会
「射水南部丘陵における【人間の営みと野生動植物（特に両生類）の共生】
を促進する事業」

④射水市世界一挑戦塾
「すべての子ども達にクリスマスを」

6 閉会

1 射水市公募提案型市民協働事業報告会・審査会スケジュール

13:00～	受付
13:45～	令和3年度公募提案型市民協働事業報告会 富山福祉短期大学 「あきらめないで挑戦する自分になる！『自分を応援できる自分づくり』促進事業」
14:00～	令和4年度公募提案型市民協働事業審査会 開会 審査委員の紹介及び進行説明等
14:15～ 15:30	提案団体によるプレゼンテーション 【フリー型】多様な主体による協働事業 1 射水市世界一挑戦塾 / しろえび未来企画有限責任事業組合 ／一般社団法人 金山里山の会 「イミズ そうめんのだす（出汁）」 【テーマ型】持続可能なまちづくりに向けて 2 若い芽・こども音楽コンクール実行委員会 「若い芽・こども音楽コンクール」 3 特定非営利活動法人 自然環境ネットワーク・射水市ビオトープ協会 「射水南部丘陵における【人間の営みと野生動植物（特に両生類）の共生】を促進する事業」 4 射水世界一挑戦塾 「すべての子ども達にクリスマスを」
15:35	閉会

2 発表方法

【令和3年度公募提案型市民協働事業報告会】

- ・発表時間は、1団体5分間とします。
- ・発表開始後、4分経過時にベルを1回、5分経過時に2回鳴らします。

【令和4年度公募提案型市民協働事業審査会】

- ・発表時間は、1団体7分間とします。
- ・発表開始後、6分経過時にベルを1回、7分経過時に2回鳴らします。
- ・発表後の審査委員からの質疑応答は8分間です。
- ・質疑応答開始後、7分経過時にベルを1回、8分経過時に2回鳴らします。

3 審査基準

項目	審査ポイント
課題解決	①地域課題や市民ニーズを捉えたものであるか。 ②公益性・社会貢献的な事業であるか。 ③募集のテーマに沿った事業内容であるか。
協働の効果 事業の効果	①協働の役割分担が明確かつ妥当であるか。 ②協働で実施することにより、相乗効果が期待できるか。 ③市民の満足度が高まり、具体的な効果や成果が期待できるか。
事業の実現性	①計画どおりに事業実施が可能であるか。 ②市が実施するより、サービスの向上が図られるか。 ③予算の見積もり等が適正であるか。
提案団体の実施能力	事業を実施する上での専門的な知識や経験を有し、提案事業の実施が可能であるか。
先駆性・独自性	①新しい視点から取り組む事業であるか。 ②工夫やアイデアが盛り込まれているか。
自立性・持続性	①自己努力による資金確保に努めているか。 ②自立的に発展していくことが期待できるか。 ③継続性を期待できるか。

4 採択事業の決定

提案事業の採否は、後日審査結果を基に市長が決定します。

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 射水市世界一挑戦塾 他2団体

事業の名称	イミズ そうめんのだす（出汁）	
事業の目的	（解決すべき地域課題と市民ニーズ） コロナ感染症で県内市内のイベントが減ってきた中。射水市は盛り上がっていきたい。花火大会、海鮮祭りだけではない。新しいイベントの構築。それぞれの団体がお互いの得意分野を活かし、共にイベントを構築することで「地域の価値」を再構築することを目的とする。古くから新湊のそうめんの出汁には「しろえび」と「シイタケ」そしてネギが入っていた。すべてが揃う地の利を活かしそうめんの出汁を再現する。それだけではなく豊かな海は里山の恵からということを学ぶ為に、金山小学校と放生津や新湊小学校相互で海と山の体験を行う。	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	（誰を） 子ども達や地域の方々
	手法	（いつ、何を、どのように等） 6月からそうめんの出汁をつくり始めます。きのこの菌入れを放生津、新湊小学校で行い、金山小学校の児童がしろえびを獲りに行きます。イベント当日に向けて様々な交流や体験、勉強会をして射水市の魅力を学びます。 8月11日（山の日）にそうめんイベントを開催。「しろえび」や「シイタケ」を使ったそうめんの出汁を作ります。 黒河の竹を使い射水の水を使った流しそうめん。そして、わんこそうめん大会。しろえびを使った料理、シイタケを使った料理等々の飲食。そして子ども達には昔の遊び（竹馬や竹トンボ）を教えるブースや縁日。地元、児玉製麺や中六醤油、川口のネギなどとコラボして新たな商品開発。新たなイベントをつくる。
	目標	（具体的な指標、数値目標等） 【具体的な目標】 子ども達に地元の魅力提供 新たな商品の開発・地域の活性 射水の魅力発信 【指標・数値目標】 来場者数合計 1,000 人
協働事業として取り組むことの必要性	（団体や行政の特性から説明してください。） 射水市世界一挑戦塾は射水市のPRを大前提で活動中。 保育園や幼稚園の窓口は市です。子ども達をより豊かな環境で官民連携して育てるという気持ちが「子育てするなら射水市で」と言えます。	

役割分担	(提案団体が果たす役割) しろえび倶楽部 しろえびの生態教育、しろえび料理販売 金山里山の会 シイタケを使った料理販売紹介 流しそうめん土台作成 射水市世界一挑戦塾 総合企画、運営、子ども縁日 (児玉製麺、川口葱、中六醤油 協力) (事業実施に伴う市の役割) 周知、市内への広報活動
事業スケジュール (別紙添付でも可)	(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール) 5月 第一回会議 計画概要説明 6月 ポスター・チラシ作成 7月 流しそうめん台・竹の遊び道具作成 8月 最終打ち合わせ 8月11日 当日
事業効果	(事業に取り組むことで、どのような効果が期待できるか。) 【期待できる効果】 子ども達が地元の魅力に気付く 射水市の食文化を再認識 子ども達へ昔の遊びを知ってもらう 市内業者のコラボと商品開発 【成果指標・数値の目標】 来場者数は1,000人を目指す ゲーム機やネットの普及で子ども達が外で遊ばなくなった昨今、子ども達へ外で遊ぶ楽しさに気づいてもらえる
事業展開	(協働事業終了後の事業展開) 継続的に山側の学校、海側の学校と交流を持つことができる 子ども達は毎年変わるので射水市の魅力を毎年伝えていくことができる コラボ新商品の開発

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 若い芽・こども音楽コンクール実行委員会

事業の名称	若い芽・こども音楽コンクール	
事業の目的	（解決すべき地域課題と市民ニーズ） SDGsの該当目標 「4 質の高い教育をみんなに」 コンクールへの参加を通して、意欲・関心を高め、生涯にわたって音楽を学び続ける機会を促進する。 「11 住み続けられるまちづくりを」 多くの子どもが参加し活動を広げていくことで、豊かな文化環境の創造と継承に基づく住みよいまちづくりを促進する。 「16 公正、平和かつ包括的な社会を促進する」 音楽で人をつなぎ、平和な社会の促進を実現する人材を育成する。 幼児期・学童期に体験し身に付けたことは、生涯にわたりその人の基盤となる。本事業では、その幼児期・学童期の子どもたちが、入賞を目標とするコンクールに参加することを通して音楽への意欲・関心を高め、目標をもって活動することによって、生涯にわたり音楽に親しんでいく機会となることを目的とする。 射水市には、「アイザック小杉文化ホール ラポール」がある。音響効果に優れているこのホールを、コンクールを通して一人でも多くの方々に知ってもらいたい。また、参加者にホールで演奏するということを経験してもらいたい。そして、将来、このコンクールを通して、射水市から国内外で活躍する人が育って欲しい。	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	（誰を） 幼児期・学童期のこども （年長・小学校低学年、小学校高学年、中学生）
	手法	（いつ、何を、どのように等） 日時：令和4年10月2日（日） 場所：音楽ホール（アイザック小杉文化ホール ラポール） 内容：ピアノ部門（独奏） 歌唱部門（独唱） 各部門の審査員が賞を決める。 コンクール形式。
	目標	（具体的な指標、数値目標等） 【具体的な目標】 子どもたちの人間的な育成、そして、将来、射水市から国内外で活躍する人材の発掘を目標とする。 【指標・数値目標】 参加者50人を目指す。

協働事業として 取り組むことの 必要性	(団体や行政の特性から説明してください。) 音楽に興味・関心のある子供たちの発掘は、団体のみでは難しい現状がある。行政と協働することで、幅広い人材の発掘をすることができる。また、射水市は800席以上の客席を持ち、音響効果にも優れているホールを有している。コンクールを通して射水市外の県民にもこのホールの良さを知ってもらうことで、射水市の音楽文化をPRすることができる。
役割分担	(提案団体が果たす役割) ・コンクールの企画・運営
	(事業実施に伴う市の役割) ・広報いみず、ケーブルテレビ、ホームページ等での広報 ・幼稚園、小学校、中学校への参加呼びかけ ・教育委員会などの後援依頼 ・事業実施におけるアドバイス
事業スケジュール (別紙添付でも可)	(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール) 別紙1 参照
事業効果	(事業に取り組むことで、どのような効果が期待できるか。) 【期待できる効果】 ・幅広い人材を発掘することができる。 ・一つの目標に向かって訓練し、人前で演奏することの喜びを味わうことで、子どもたちが音楽に対する興味・関心を持ち、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てることができる。 ・同じ目標を持つ他の人の演奏を聴くことでお互いを高めあうことができる。 ・コンクールを通して、「アイザック小杉文化ホール ラポール」を知ってもらい、射水市の音楽文化を市外の県民にもPRすることができる。 【成果指標・数値の目標】 ・アンケート調査において、「音楽に対する意欲・関心が高まった」と回答する出場者の割合を70%以上にする。
事業展開	(協働事業終了後の事業展開) 今回のコンクールに参加した子供たちや、今回参加に至らなかった子供たちの目標となるように、年に1回コンクールを開催する。

事業スケジュール

4月	審査員の依頼	
	出場者の応募要項作成	
	チラシ作成	
5月	応募要項発送	
	各幼稚園、小学校、中学校へ発送	
	各ホールに配布	
	広報活動開始	
8月	上旬	応募締め切り
	下旬	応募者当日スケジュール発送
9月	下旬	最終確認
10月2日（日）	調律	9:00～10:00
	コンクール	10:30開始、17:00終了予定

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 NPO 法人自然環境ネットワーク・射水市ビートアップ協会

事業の名称	射水南部丘陵における【人間の営みと野生動物（特に両生類）の共生】を促進する事業	
事業の目的	（解決すべき地域課題と市民ニーズ）  【SDGs 持続可能な開発目標⑮陸の豊かさを守ろう】森林の持続可能な管理、（中略）生物多様性損失の阻止を図る ・地球規模で進行する生物多様性・生態系の破壊に対応するために、2010年に名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）において日本から提案された SATOYAMA イニシアティブが採択された。 ・原生的地域の生物多様性は人が関与することにより劣化し、里山的地域の生物多様性は人の関与が減少することにより劣化する。 ・原生的自然は、少ないが、里山地域は多くある射水市において【人と野生動植物の共生】を図り、生物多様性・生態系の理念を啓発し、希少動植物・地域在来動植物・絶滅危惧種の保存を図るとともに過密化や高齢化の進行による里山の生物多様性の衰退を防ぎ地域の活性化を図る。	
事業内容 （複数の事業がある場合は別紙添付でも可）	対象	（誰を） 射水市内の里山地域・射水市入会地周辺。この地域において地元住民・児童生徒・学生からシニア世代までの全市民を対象にした事業を行う。
	手法	（いつ、何を、どのように等） 【里山地域の（人間と野生動植物の共生）は両者が折り合って形成される】 ①人間の関与の減少⇒⇒耕作放棄地の増加⇒⇒産卵場所の喪失 ⇒⇒生息数の減少 ②人間の関与の増大⇒⇒開発行為・作業道造成⇒⇒生息地域の分断 ⇒⇒生息数の減少 『①や②の現象を軽減・代償することが今回の事業の意義』 ●野生生物の保全に関する事業 (1) 主なターゲット 富山県希少野生動植物保護条例で指定されている 5 種の内 2 種が 射水丘陵・下条川上流地域に生息 ○ホクリクサンショウウオ（両生類）環境省リスト絶滅危惧Ⅰb類 ○ミナミアカヒレタビラ（淡水魚類）環境省リスト絶滅危惧Ⅰa類 ・アカハライモリ（両生類）環境省リスト準絶滅危惧種 ・トノサマガエル（両生類）環境省リスト準絶滅危惧種 ・クロサンショウウオ（両生類）環境省リスト準絶滅危惧種 ・タナゴ類（淡水魚類）環境省リスト準絶滅危惧種 ・センニンモ（藻類）在来種 (2) 実施方法 A. 【生息地・餌場の確保】侵入竹や外来植物などに覆われ荒廃した山林において竹を伐採し、主として地域在来種の広葉樹を植林し、植物相豊かな森林を造成する。 B. 【産卵地の確保】カエル・サンショウウオ・イモリ等の両生類やホタル・トンボなどの昆虫類等の水生生物の産卵地を

		確保するために間地に 年中水を湛える池・ワンド・水路を造成する。 C. 生息地と産卵池を結ぶ回廊を整備する。 ●里山の魅力・生物多様性の理念を発信するための事業 ・生物の生息調査・産卵調査 ・自然観察会・自然環境セミナー等の開催 ・植樹・侵入竹の伐採やチップ化等の里山体験 ・巣箱づくり・竹細工づくり等のワークショップの開催 ・水生昆虫調査・観察会等の水に親しむ行事 ・里山ビオトープフォーラムの開催 他 ●主な連携先 ・富山県立大学地域連携センター 2016 年度より学術相談契約締結 ・NPO 法人日本ビオトープ協会 ・(公財) 日本生態系協会・富山県ビオトープ管理士会 ・いみず水辺の愛好会 ・富山県ビオトープ研究会 ・富山県自然博物園ねいの里 他
	目標	(具体的な指標、数値目標等) ・生態系・生物多様性の理念の普及を図り、年間 1,000 人の参加を目標とし、地域の交流人口を増加し地域の活性化と人と自然が共生できるまちづくりに寄与することを目標とする。 ・約 1.5ha の里山の整備・侵入竹 300 本伐採・広葉樹 200 本の植樹・耕作放棄地や山の沢を活用し生物多様性保存型ビオトープ池や水路を 2 ケ所造成 ・両生類・昆虫・水生生物の生息数の 10% 増加 ・ホクリクサンショウウオの自然産卵の増加 ・造成したビオトープ池で 10 種以上の自然産卵の実現 ※他地域からの移植はしない。全て呼び込み・自然産卵
協働事業として取り組むことの必要性	(団体や行政の特性から説明してください。) ・生物多様性基本法（平成 20 年 6 月施行）では、『都道府県及び市町村は（中略）生物の多様性の保全及び（生物資源の）持続可能な利用に関する基本的な計画（生物多様性地域戦略）を定めるよう努めなければならない』と規定されています（第 13 条）。義務規定ではなく、努力規定ではありますが、何らかの行動が求められています。これこそ市民協働事業として取り組むべき課題だと考えます。 ・当協会は、小杉物クラブ OB 会を母体にしており、長年にわたり、自然環境の調査・観察・研究などの事業を行ってきました。近年は射水市内外から生物に関心ある方が参加するようになり、又専門機関との連携も進んでいます。更に研鑽を進めスキルアップしてこの協働事業に取り組みたいと考えます。	
役割分担	(提案団体が果たす役割) ・生物多様性保存型里山ビオトープの造成・整備。 ・里山ビオトープの維持管理作業、地域特有の生物の収集保存調査活動、里山ビオトープを活用した市民等への啓発活動	
	(事業実施に伴う市の役割) ・里山ビオトープ形成に関する指導及び助言 ・里山ビオトープ池・水路の造成（専門業者に委託）に対する財政的支援 ・参加者募集や行事の周知などの広報活動の支援	

事業スケジュール (別紙添付でも可)	(準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール) 準備期間 令和4年1月～3月 NPO法人日本ビオトープ協会のと里山 ビオトープの基本構想・設計などの協議 ● 令和4年4月～令和5年3月まで周辺地域の生物(特にホクリクサンショウウオ等の両生類・ミナミアカヒレタビラ等の淡水魚)の調査 ● 令和4年12月～5年4月までホクリクサンショウウオの産卵調査 ※ 事業終了後も引き続き実施する ● 令和5年2月 ビオトープフォーラム in 射水の開催 ◎事業の評価のポイント ・何人がビオトープ形成活動に参加するか、何人がビオトープを利用した活動に参加するかという点及び、本来その地域に生息していた生物がどれだけ保存されるかという点 ・象徴的な意味では、造成したビオトープ池や水路でホクリクサンショウウオがどれだけ自然産卵したかという点。 評価のスケジュールは、毎年と10年～20年後という2つの視点で行う。
事業効果	(事業に取り組むことで、どのような効果が期待できるか。) 【期待できる効果】 ●射水南部丘陵における【開発行為と野生動植物が共生した里山的自然・里山的生物多様性の維持・創出】が実現し【SDG s 持続可能な開発の⑬陸の豊かさを守ろう】を発信できる ・地域在来生物・絶滅危惧種の希少生物の保存ができる ・市民参加型の自然保護活動・自然観察の会・ビオトープ教室・講座・講演会などを連続的に開催することにより、子どもの健全育成・社会教育の推進を図る機会が提供され、人と自然が共生できるまちづくりの一端を担える。 ・射水の里山の魅力を全国に発信できる。 【成果指標・数値の目標】 両生類の自然産卵 10種以上・ホクリクサンショウウオの自然産卵 10卵塊以上
事業展開	(協働事業終了後の事業展開) この事業は、一旦形成すれば、終わりではなく継続した維持管理作業が必要であり、継続のためには、次世代へのバトンタッチも必要であり多くの人に参加してもらえよう努力する。 年次ごとに第Ⅱ期・第Ⅲ期事業を行いより充実した里山ビオトープに拡充する。

射水市公募提案型市民協働事業 事業計画書

団体名 射水市世界一挑戦塾

事業の名称	すべての子ども達にクリスマス	
事業の目的	（解決すべき地域課題と市民ニーズ） コロナ感染症により、特に生活が困窮した子育て世帯、人と人とのコミュニケーションも取りづらくなった 2 年あまり。3 年前は当たり前にあったクリスマス。すべての子ども達にクリスマスはやって来る。子ども達に笑顔になってもらいたい。子どもの笑顔を見た周囲も笑顔になってもらいたい。	
事業内容 (複数の事業がある場合は別紙添付でも可)	対象	（誰を） 子育て世帯
	手法	（いつ、何を、どのように等） 12 月 3 日からは全天候型である高周波文化ホール吹き抜けロビーに一本の大きめのクリスマスツリーを飾る。各保育園や認定こども園に小さなツリーの飾りつけコンテストの依頼をして完成したツリーを並べる。それをコンテスト形式にして投票してもらう。一番得票の多いツリー制作保育園にプレゼント。 12 月 24、25 日はクリスマスということで子育て世帯へサンタを派遣する。家族のプレゼントを代わりに渡す＋長靴お菓子をプレゼントする。中にはブラックサンタもいて、いい子にしてない子には嫌がる物をあげる（ピーマンとか）いい子になることを約束した子どもにはブラックにかけて富山ブラックどら焼きやブラックラーメンをプレゼントする。
	目標	（具体的な指標、数値目標等） 【具体的な目標】 一人でも多くの子ども達に笑顔になってもらう 【指標・数値目標】 射水市合計 28 の保育園、幼稚園がツリー制作を行ってもらう 来場者数合計 2,000 人を目指す
協働事業として取り組むことの必要性	（団体や行政の特性から説明してください。） 射水市世界一挑戦塾は射水市の P R を大前提で活動中。 保育園や幼稚園の窓口は市です。子ども達をより豊かな環境で官民連携して育てるという気持ちが「子育てするなら射水市で」と言えます。	
役割分担	（提案団体が果たす役割） 企画、運営	

	（事業実施に伴う市の役割 ※フリー型提案の場合は地域振興会の役割も記載） 各保育園や幼稚園への周知、市内への広報活動
事業スケジュール (別紙添付でも可)	（準備期間、本実施期間、事業の評価等のスケジュール） 9 月 第一回会議 計画概要説明 10 月 ツリー飾りつけ依頼・ポスター作成 11 月上旬 各保育園 ツリー飾りつけ 11 月下旬 各保育園 ツリー回収 12 月 3 日 点灯式 12 月 24、25 日 サンタ＆ブラックサンタ派遣 12 月 26 日 協力者、協力者家族の 1 日遅いクリスマス会
事業効果	（事業に取り組むことで、どのような効果が期待できるか。） 【期待できる効果】 生活に困窮した子育て世帯が笑顔になる 「子育てするなら射水で」を市内外へ P R 若者に参加を促し、子ども達とふれあい。地域を大切に思ってもらえる 【成果指標・数値の目標】 数字で表せれるものではないが、来場者数は 2,000 人を目指す
事業展開	（協働事業終了後の事業展開） 毎年恒例になれば、子育て世帯だけではなく、デート等にも使っていただける射水市の大切なイベントになる。婚活にも活かしてほしい。

射水市市民生活部 地域振興・文化課

〒939-0294 射水市新開発4 1 0番地 1

TEL : 0 7 6 6 - 5 1 - 6 6 2 2

FAX : 0 7 6 6 - 5 1 - 6 6 5 4

E-mail : chiikibunka@city.imizu.lg.jp

